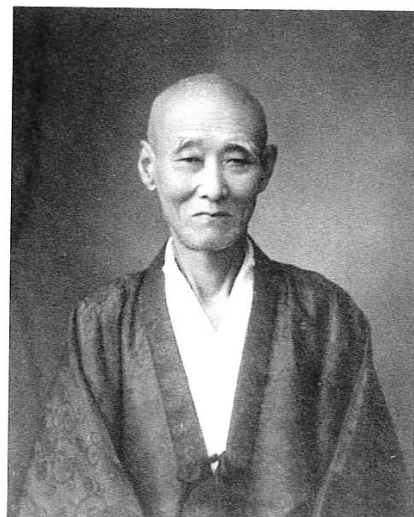


松本白華の年譜

- 一八三八（天保 九）年 二月三日、加賀国松任（現 東一番町）真宗大谷派本誓寺住職、達命の次男として誕生。 童名・牟丸。
- 一八四九（嘉永 二）年 四月一六日、得度。
- 一八五〇（嘉永 三）年 京都で宮原節庵に書を、海原謙蔵、劉三郎らに漢籍を学ぶ。
- 大阪の広瀬旭荘に入門。
- 一八五六（安政 三）年 本誓寺第二六世住職となり、嚴護と命名。
- 一八五七（安政 四）年 香山院で宗学を修め、小栗栖香頂、楠潜龍らと親交を結ぶ。
- 一八五八（安政 五）年 コレラの流行、手取川の洪水等で身寄りのない人達に寺を開放し、引き取り手のない無縁仏にも手を差しのべる。
- 一八六九（明治 二）年 異教宗徒の改宗のため、石川舜台とともに異宗教論としてその任にあたる。
- 一八七一（明治 四）年 二月に異宗教論の職を辞し、東京に出て長三州の香草吟社において詩を修む。
- 一八七二（明治 五）年 四月より「白華」と号す。
- 教部省出仕となる。
- 現如上人に随従し、石川舜台・成島柳北らとともに欧州へ宗教視察におもむき、「白華航海録」を記す。
- 一八七七（明治一〇）年 東本願寺外国布教係として、上海別院輪番となる。（紺紙金泥の三部経写経を在職中に書く。）
- 一八七九（明治一二）年 自坊に帰り、遙及社を創設し子弟の教育に努める。
- 一九一〇（明治四三）年 本山議制局議長となる。
- 一九一一（明治四四）年 五月に権僧正に任ぜられ、金沢護法会会長に推される。
- 一九一六（大正 五）年 「白華餘事」と題した詩文集を刊行。
- 一九二五（大正一四）年 米寿を祝され、僧正の位を受く。
- 一九二六（大正一五）年 二月二五日没す。（行年八九歳）

愛用品



筆（五本）と筆入



硯

